

令和7年度 事務事業マネジメントシート			段階： 令和6年度実施事業に係る事務事業評価					4230		ハタチのつどい開催事業				教育委員会事務局教育総務部	生涯学習課
1 事業概要			中事業番号		1155									所属コード	513000
政策体系			SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X推進	手段	意図（目的）		
大綱（取組）	Ⅲ「学び育む子どもたちの未来」		17.17									式典とアトラクションを実施する。記念品を配布する。対象者と年齢の近い方々で企画委員を組織し、つどいの企画・立案に参加してもらう。	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする20歳の青年を祝い励ますとともに、互いに祝福しあい、夢と希望を語り合うつどいの場として郡山市ハタチのつどいを開催する。		
施策	2 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち														

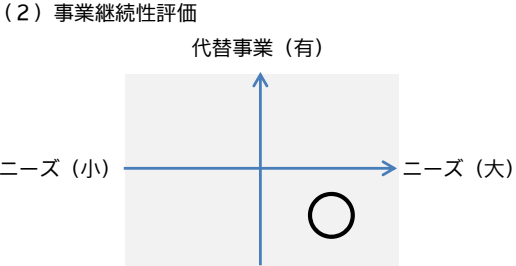
事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
国民の祝日に関する法律の施行に伴い、成人を迎える青少年に対して、大人としての自覚と社会の一員としての意識啓発を図るための場が求められている。		令和4年4月1日から民法改正により成人年齢が20歳から18歳に引き下げとなったが、飲酒や喫煙、公営競技の投票権購入などすべての年齢制限がなくなる区切りが20歳である。社会人としての自覚や責任を促す機会として、ライフスタイルの変化に対応した内容の充実が求められている。		社会情勢の変化による燃料価格高騰や2050年カーボンゼロ達成に向け、事業実施における省エネルギー化が必要不可欠となっている。また、市内の若年層の環境に対する意識が高まっており、実施手法や配布物についても対象世代のニーズや社会課題に対応していく必要がある。		式典本来の意味合いが伝わるよう、プログラム構成や会場設営について、より参加者の視点に立った内容となるよう要望されている。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和4年度）		2023年度（令和5年度）		2024年度（令和6年度）		2025年度（令和7年度）		2026年度（令和8年度）		2027年度		2028年度	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	中間指標 2021年度	最終指標 2025年度
対象指標	対象者数	人		3,419		3,628		3,309								
活動指標①	参加人数	人	2,700	2,397	2,700	2,604	2,700	2,402	2,700		2,700		2,700	2,700		
活動指標②	企画委員数（R4まで）	人	10	6												
活動指標③																
成果指標①	参加率	%	75	70	75	72	75	73	75		75		75	75	75	75
成果指標②	企画委員の会議参加率（R4まで）/専用ホームページアクセス率（R5～）	%	80	76	40	147	40	132	100		100		100	100	80	30
成果指標③																
単位コスト（総コストから算出）	参加者1人あたりのコスト	千円		6		5.4		6.7	5.3		6.3		6.3	6.3		
単位コスト（所要一般財源から算出）	参加者1人あたりのコスト	千円		6		5.4		6.7	5.3		6.3		6.3	6.3		
事業費		千円		9,737		10,638		12,186	10,762		10,762		10,762	10,762		
人件費		千円		3,713		3,445		3,838	3,445		3,445		3,445	3,445		
歳出計（総事業費）		千円		13,450		14,083		16,024	14,207		14,207		14,207	14,207		
国・県支出金		千円														
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		13,450		14,083		16,024	14,207		14,207		14,207	14,207		
歳入計		千円		13,450		14,083		16,024	14,207		14,207		14,207	14,207		
		実計区分	評価結果	継続	継続	継続	継続	継続		継続						

活動指標分析結果		成果指標分析結果		総事業費（事業費・人件費）分析結果	
・新型コロナ発生以降、開催時間短縮（1時間）により実施。 ・対象者数の減少に伴い参加人数は昨年度より減少している。		・参加率は73％とコロナ以前（2019年度）の74％と比べると参加率は低いが、一昨年度は前年度比2％増、昨年度は1％増と年々回復傾向にある。 ・開催日の工夫（連休の中日）により、高い参加率を維持している。		【事業費】 会場に係る経費（使用料、清掃委託）や企画運営のコストが上昇し、事業費が増加した。	
				【人件費】 企画運営に要する業務が増加したことにより、人件費が増加した。	

### 3 一次評価（部局内評価）

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		4
2 公平性		4
3 効率性		3
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		4



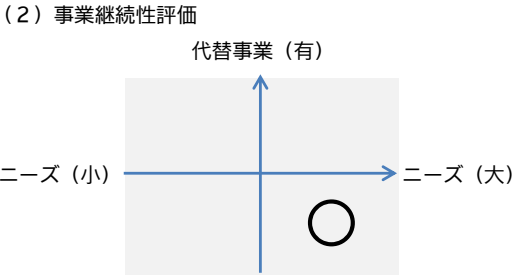
継続	一次評価コメント
継続	20歳を祝い励ますとともに、自主性や社会性を持った地域社会の一員として自覚を促す事業であり、人生の節目として認知され参加率も高いことから継続して実施する。参加者から実施にあたっては、参加者に魅力のあるつどいの場となるよう近い年齢層の企画委員からの意見を取り入れながら実施していく。

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
	○				○

気候変動対応	D X（デジタル市役所）	部局間協奏
	○	○

### 4 二次評価

(1) 事業手法評価		
1 規模・方法の妥当性		3
2 公平性		3
3 効率性		3
4 活動指標（活動達成度）		4
5 成果指標（目的達成度）		4



継続	二次評価コメント
継続	令和6年度においては、参加人数が2,402人、参加率が73％と目標75％に近い成果を示したが、過去のコロナ以前の74％には若干及ばなかった。参加人数の減少は対象者数の減少が一因であるが、連休中日の開催工夫により回復傾向が見られる。 一方、物価高騰に伴う経費増加が課題であり、会場設営や配布物の見直しなど、最少の経費で最大の効果を挙げ、かつハタチのニーズに合ったイベントの企画が求められている。 本事業は、20歳の青年に成人としての自覚を促す重要な機会として意義が大きく、引き続き効率化を図りながら実施する必要がある。

(参考) 令和6年度カイゼンのための行動計画